

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	臨床心理学
学籍番号		院生氏名	皆川久仁子
通学キャンパス			
論文題目	文化心理学の視座から見た日本人米国駐在員妻の異文化受容プロセス		
審査結果(枠で囲む)	合格		
<p>&lt;審査結果の要旨&gt;</p> <p>1. 主論文について</p> <p>1) 研究の概要</p> <p>本研究は、異文化接触者の文化的世界観を理解することを目標とし、①異文化接触者の葛藤の背後にある文化的・社会的・歴史的意味を解明する ②異文化接触者が葛藤を乗り越え、滞在国の文化を受容するに至るプロセスを解明するという2つを目的として行われた。長期間米国に滞在した経験を持つ日本人駐在員妻7人にナラティブ・インタビューを実施し、複線径路等至性アプローチ(Trajectory Equifinality Approach: TEA)を用いて整理・分析した。その結果、5つのライフステージにおける葛藤の性質が明らかになった。そして、研究協力者たちは、葛藤に遭遇する度に状況に合わせて自らを柔軟に変化させ、葛藤を乗り越え、やがて異文化を受容して行った。しかし、異文化環境下で生活する人の異文化受容プロセスはひとり一人異なり、クライアントを画一的にカテゴリー化し、共通の異文化プロセスを適用することはできないという結論に達した。</p> <p>2) 研究方法(倫理的問題を含む)、論証、論文形式</p> <p>これらについては適切であった。</p> <p>3) 研究の新規性と価値について</p> <p>異文化受容のプロセスはひとり一人異なるが故に、多文化カウンセリングにおいてはステレオタイプに陥ることなく柔軟に対処することが必要であることを、説得力を持って論証することができた点で新規性と価値を認めた。</p> <p>2. 審査経過、</p> <p>審査会は2回開催され、初回審査会では、副論文の引用・重複が多すぎることが指摘され、さらには、副論文を含む先行研究を踏まえたリサーチクエッションを明確にするよう修正を求めた。第2回審査会ではそれらが適切に修正・加筆されていることが確認された。一方、「分析の手順」が明確に書かれておらず、また、結果に先立って分析の結果の一部が記述され、さらには結果を導く過程が省略されすぎているとの指摘がなされた。これらはその後、再修正論文によって適切に修正されたことが確認された。</p> <p>3. 口頭試問</p> <p>口頭試問においては適切に応答した。</p> <p>4. 合否</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(臨床心理学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主 査	飯長 喜一郎	印
	副 査	鹿島 晴雄	印
	副 査	岡村 世里奈	印